

ゆで・レトルト落花生用の新品種 「郷の香」を作ろう!

◎新しい味—ゆで・レトルト落花生で掘りたての味を!



全体

1.「郷の香」の特性

①早生の多収品種!

「ナカテユタカ」と「八系192」とを昭和54年に交配、平成7年に農林登録された早生品種です。

草型は立性で、莢数は多く、株元にまとまってつきます。

②莢は美しく、とても美味しい!

莢は白くて大きく、熟度が揃います。甘みが強く、食味は極めて良好です。

③7月中旬からの早掘り可能!

トンネル栽培では7月中旬から出荷することができます。



莢

豆



(社) 千葉県落花生協会

2.栽培のポイント

①作型と播種期・収穫期

ゆで豆用に「郷の香」を使うことで栽培期間が短くなり、作型も幅が広がります。

表1 作型と播種期・収穫期

月 作型	3月 下旬	4月 上 中 下	5月 上 中 下	6月 上 中 下	7月 上 中 下	8月 上 中 下	9月 上 中 下	10月 上 旬	期待できる 10a当り収量
トンネル 栽培	△—△		×—×		○—○				450 kg ~ 500 kg
べたがけ 栽培		△—△		×—×		○—○			550 kg ~ 600 kg
マルチ 栽培			△—	×	△—×		○—	○	500 kg ~ 600 kg

△—△：播種期 ×—×：開花期 ○—○：収穫期

トンネル栽培

- ・3月下旬～4月中旬播きはマルチの上にトンネルをかけます。

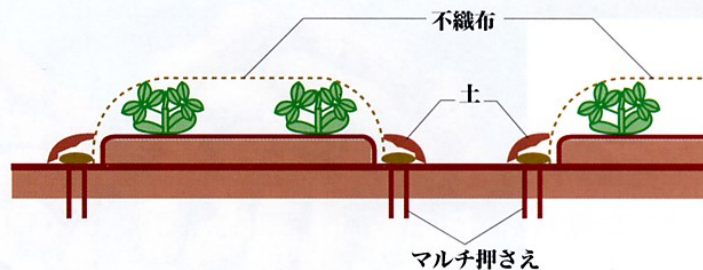
トンネル栽培は資材費と労力がかかり、収量もやや下がります。早期出荷による価格面での有利性が見込める場合や、組み合わせる輪作作物との関係を考慮して下さい。

べたがけ栽培

- ・4月下旬～5月上旬播きはマルチ上に不織布（パスライトなど）のべたがけをします。

マルチ栽培

- ・5月中旬以降はマルチ栽培とします。



べたがけ用不織布の張り方

②栽植密度

- ・立性なので密植栽培にも適しています。
- ・平均うね間60～70cmにして、株間24～27cm程度の穴あきマルチで栽培できます。

③トンネル・マルチ・べたがけの除去

- ・トンネルは晴れた日には換気が必要です。
- ・開花期（半分程度の株に花が咲いたとき）後7～10日でトンネル・マルチ・べたがけを除去します。
- ・マルチ除去後にていねいに除草します。

④収穫の時期

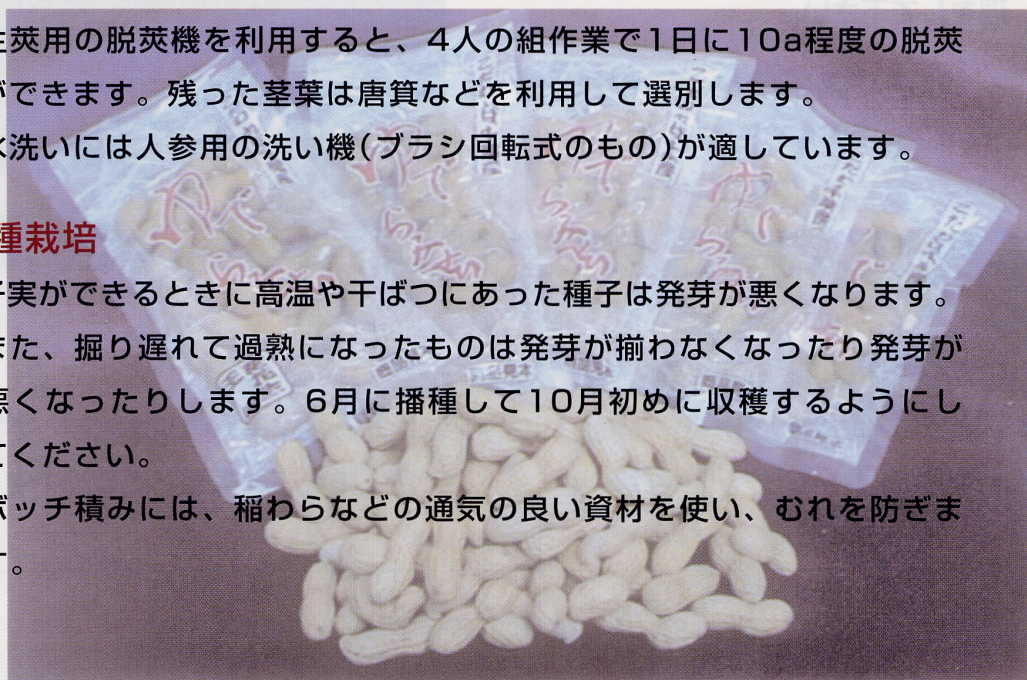
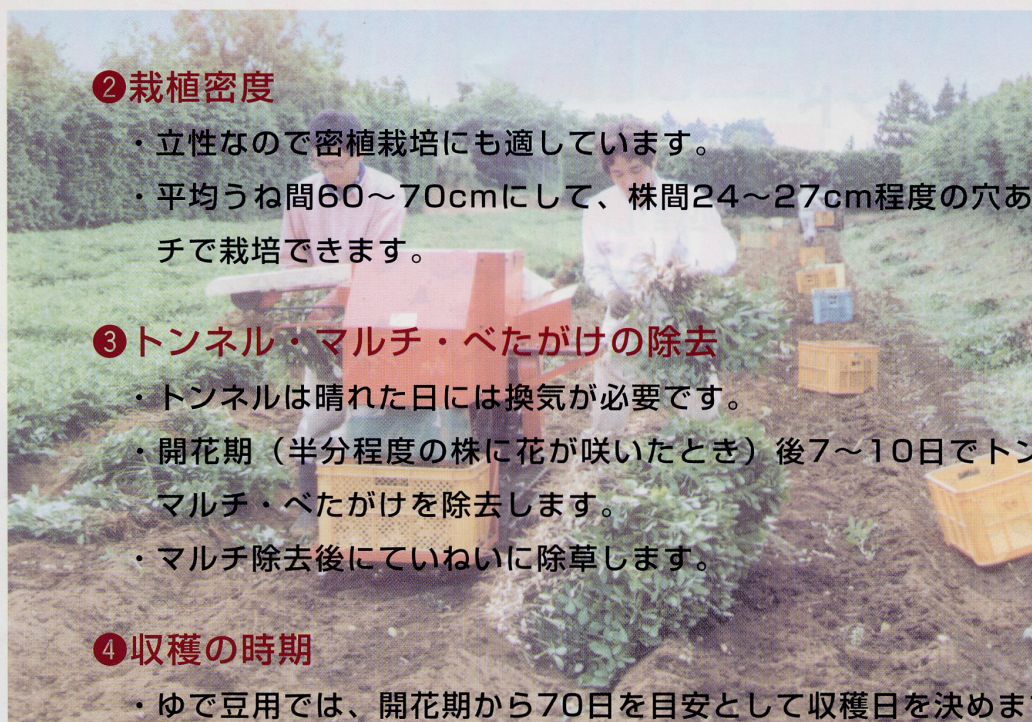
- ・ゆで豆用では、開花期から70日を目安として収穫日を決めます。
- ・レトルト用には、ゆで豆用よりやや熟度の進んだもの（開花期後75日程度）が適しています。

⑤脱莢・調製作業

- ・収穫後すぐに莢をもいで出荷します。手間がかかる作業なので、その日に出荷できる量だけ収穫するようにします。
- ・生莢用の脱莢機を利用すると、4人の組作業で1日に10a程度の脱莢ができます。残った茎葉は唐箕などを利用して選別します。
- ・水洗いには人参用の洗い機（ブラシ回転式のもの）が適しています。

⑥採種栽培

- ・子実ができるときに高温や干ばつにあった種子は発芽が悪くなります。また、掘り遅れて過熟になったものは発芽が揃わなくなったり発芽が悪くなったりします。6月に播種して10月初めに収穫するようにしてください。
- ・ボッチ積みには、稲わらなどの通気の良い資材を使い、むれを防ぎます。



3.出荷のポイント

①収穫後はできるだけ早く予冷処理し、出荷して下さい。

ゆで落花生の味を決めるショ糖やグルタミン酸は、室温下に置くと図1のように収穫後時間が経つにつれ急速に減少していきます。

美味しいゆで落花生を作るために、収穫後なるべく早く予冷処理や加工することが大切です。

収穫直後の落花生は水分が多く、そのままではカビが生えるなど、品質がすぐに悪くなります。

図2のように低温で保管すると生落花生の品質の低下を抑えることが出来ます。

水洗いや選別した後は、すぐに予冷して品質保持に努め、早めに出荷や加工処理をして下さい。

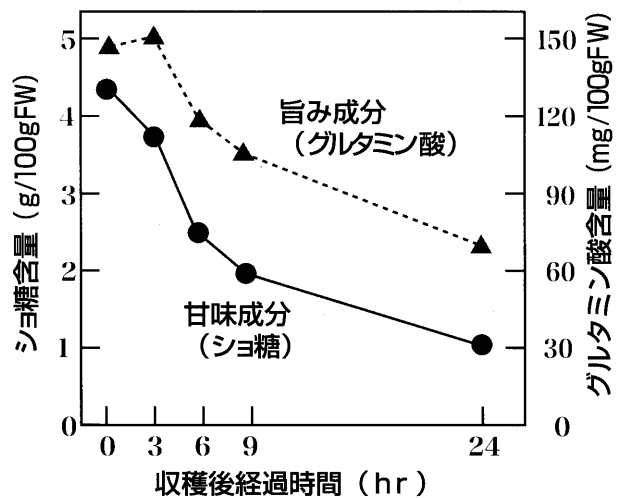


図1 生落花生の収穫後の内容成分変化(室温)

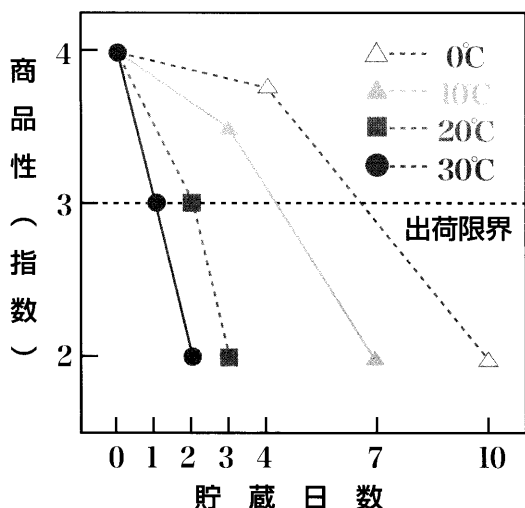


図2 生落花生の貯蔵温度別商品性変化(ナカテユタカ)
指数:4:収穫時と同じ 3:出荷可能 2:小売り可能

②販売先の確保や販売方法を工夫して下さい。

加工業者に生莢で出荷する場合は契約栽培にするなど予め販路を確保して下さい。
生産者(グループ)が、直売所などで生・ゆで落花生を有利販売できる工夫をして下さい。

問い合わせは千葉県農業試験場
☎043(291)9986

又は、各農業改良普及センターへ